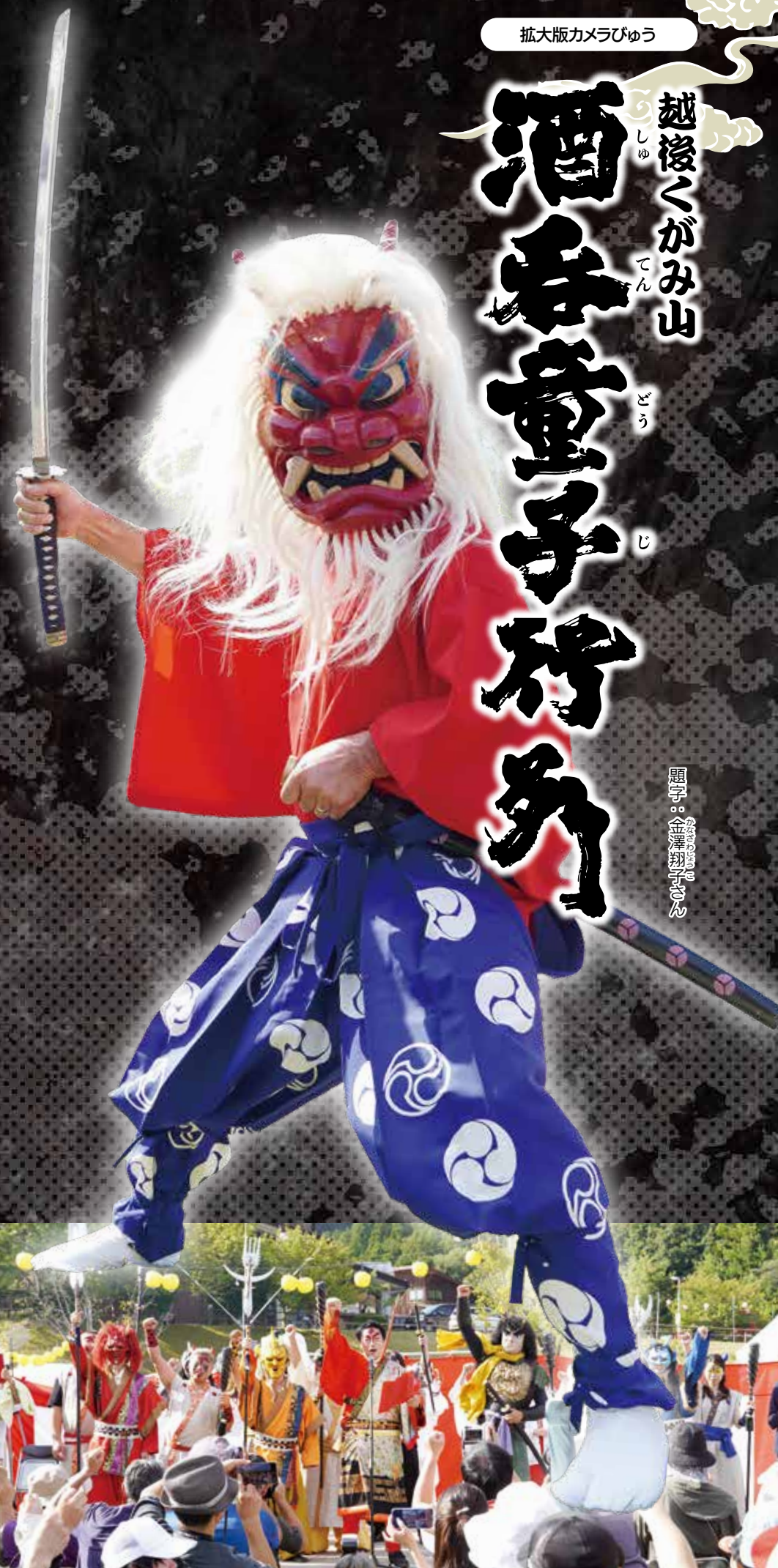


越後くがみ山

酒呑童子行列

題字：金澤翔子さん



こばしけんた
小橋建太さんが酒呑童子役として国上に降臨

伝説の鬼・酒呑童子が鬼軍団を従え、心願成就を祈りながら道の駅 SORAIRO 国上周辺を練り歩く「第20回越後くがみ山 酒呑童子行列」を9月28日に開催しました。

今年は、酒呑童子が最期を迎えた地である京都府福知山市出身で、元プロレスラーの小橋建太さんが酒呑童子役として登場。迫力ある姿に、会場から大きな歓声があがりました。

イベントでは、分水太鼓の演奏やキッズダンス、飲食コーナーやワークショップなども行われ、子どもたちはフェイスペイントや手作りの鬼の角で参加。泣き出す子どももいれば、記念撮影を楽しむ家族連れも多く、会場は大いに賑わいました。



鬼軍団 酒呑童子率いる

酒呑童子役の小橋建太さん

酒呑童子伝説とは？

燕市分水地区の砂子塚に生まれた外道丸。幼いころから乱暴者で国上寺に預けられ、母の死をきっかけに仏道の修行に励むようになりました。

外道丸は、まれにみる美男子だったため、娘たちから恋文が山のように寄せられました。それには目を向けず修行を続けました。

ある日、返事が得られないことを悲観した娘が命を絶ちます。その知らせを受けた外道丸が恋文の詰まったつづらを開けると煙が立ち上り、たちまち鬼の顔に変わり果て「酒呑童子」となりました。その後、京都で暴れた酒呑童子は源頼光らに討たれてしまいます。

伝説には「最強の鬼」伝説や「悲劇の英雄」説、二流の職人」説など多様な姿が語られていますが、燕市では、「極悪」ではなく、人並み外れた力を持ち、人々のためにその力をふるってくれる伝説の存在として、お祀りしています。